○８月２日（木）今日は世界遺産アンコールワットを観てきます。やっぱりシーズンオフなので客はガラガラ。ここはチケットブースです。１人３７ドル。ちょっと高いかな？

チケットは顔写真入りです。

この池のずっと奥です。

本来の端は修理中という事で、臨時の浮橋です。

自撮りしたら後ろでも自撮り中。

ほとんどの建物にこういう壁画が彫られています。

アンコールワットの裏に回ったらほとんど人がいません。人間ってどこの国でも表面に魅かれるんですねぇ。

本当に誰もいません。

正面に戻ってきました。

池の水草を刈り取るという、世界遺産を守る地道な作業です。

これも有名なバイヨン遺跡です。顔が四面に彫られていて『クメールの微笑み』と言われているらしいですよ。

顔が彫られているのわかります？ちょっとわかりづらいかな？

ここはアンコール・トムに入るための城壁の門です。ここを通らなければ遺跡に行けません。バスもバイクも人もみんなここを通ります。
後ろのトゥクトゥクに乗っているサングラスの怖そうなおじさんは、今回ずっと案内をして頂いたサクヤマさんです。サクヤマさんごめんなさい、載せちゃった（笑)。

晩ごはんはまたパブストリートに来ました。

大人だからビールは飲みます②。

○８月３日（金）カンボジア日本友好職業訓練センターに行ってきました。ここはカンボジア政府と日本のＮＰＯ共生フォーラムが共同で起ち上げた、縫製や農業、パソコンや日本語学習などいろいろな訓練を行い社会に職業人を送り出すセンターです。

プノンペンからのお客さんに日本語の先生が説明しているところを撮らせてもらいました。

授業をしている部屋はさすがに申し訳なくて、空き教室を撮りました。

トマトを栽培していました。

夜はシェムリアップ川のほとりを散策です。この直前まで雨でした。

ヘナという植物性の天然染料で手に模様を描いてもらいました。タトゥではないですよ。

ちょっと不安だったんですが、鮮やかに描いていきます。

これで５ドル。約１０日間くらい消えないそうです。

○８月５日（日）　あっという間にカンボジア最終日。トレンサップ湖という湖に出かけました。乗船場は当たり前だけど外国人観光客ばかりです。

左の方は一緒に行ったアンコール共生病院の看護師、三谷さんです。後ろは水上の学校で、他にもマーケットや教会、レストランなどなんでも水の上です。

写真じゃ伝わらないかもしれないけど、これ海じゃなくて湖です。琵琶湖の３倍の大きさですよ。この日は風が強くて沖まで出られませんでした。怖かったです。

水上マーケット。

レストランです。お土産も何でもありました。ワニもいました。

レストランのすぐ横の生活者。こどもが水浴びしてました。衛生面が心配です。大丈夫かなぁ。

この子は１０歳の男の子。三谷さんは子ども好きです。この子は良い子だったけど、お父さんは何もしてないのにチップをくれとちょっとうるさかったなぁ。

クビアン小・中学校。ここも日本のＮＰＯ共生フォーラムの協力でできた学校です。

日曜日で、子どもたちはお休みでした。残念。

ここにも日本の生徒たちを連れてきたいなと思っています。みんなどんなふうに遊ぶんだろう？何ができるだろう？

最後はシェムリアップ市内にある『キリング・フィールド』に行ってきました。ここは今から４０年位前にその当時のポルポト政権が大虐殺を行ったことを後世に残す、いわばモニュメント的な場所です。
いうなればカンボジアの負の遺産です。

わかるかな、中に見えるのは当時虐殺された人の本物の骸骨です。

人間は権力に取りつかれると、こうも非道になれるんだと思わせる、当時の様子を示すパネルです。

真ん中の一番下の男性が虐殺を指示したポルポト大統領です。なぜこんなことをしたんだろう？考えさせられます。

書いてある通りの伝承館です。絵はほんの一部です。

そして１０日間ずっと面倒を見てくれた作山さん（右）と、看護師の三谷さんです。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

帰りのシェムリアップ国際空港です。日本に帰るのはうれしいけど、ちょっとさびしい気持ちになりました。

〇最後に・・・

初めてカンボジアを訪問し、１０日間も滞在して率直に感じたことは、カンボジアは「明るい」そして「不思議な国」ということでした。一生懸命働いているような、でもちょっと怠けているような・・・・。街中は都会なのに、少しはずれれば日本の昔の田舎の風景があって、でもみんな手にはスマホを持っている。そのギャップが何だかとっても心に残りました。

なんども書いてきたとおり、近い将来生徒を連れてきたいと思っています。その時に我々は何ができるのか？いったいどんな事を感じるのか？正直まだまだ見えてません。でも今回の訪問で見て、聞いて、直接肌で感じたことをうまく生徒に伝えられればきっと答えは出てくるのかなと思います。

なんだかうまくまとまりませんが、一番『地球を感じた』写真でサヨナラしようと思います。

ありがとうございました。